

毛猛 只見川日向倉沢～二俣ノ沢下降

棚橋

【日時】 2014年8月24日(日)

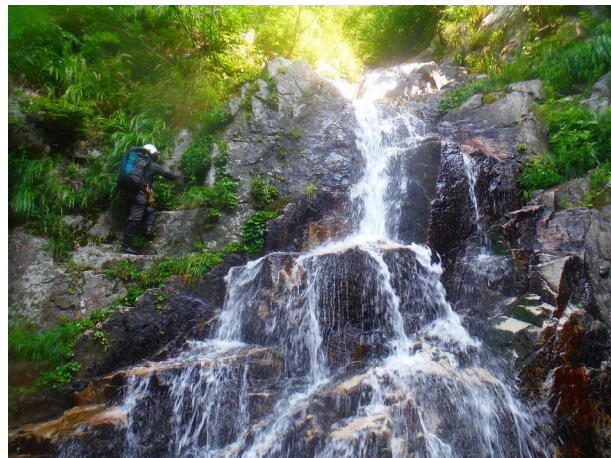
【メンバー】 L棚橋、栗原

当初は奥利根か飯豊前衛の沢を計画していたが、今週末も狙い澄ましたかのような天候不順。そこで日帰りにて山スキーではお馴染みの日向倉沢を遡行することにした。

8月24日 晴れのち雨

仮眠地よりシルバーラインの銀山平に移動し、銀山平から只見川沿いというか、湖岸沿いに進み、出合を目指す。出合に着いて日向倉沢に入るが、出合からしばらくは巨岩帯である。また少し入ったところで佐貫が体調不良を訴え、脱落。残念ではあるが、車を下降予定の二俣ノ沢出合に廻して貰えるのは有り難い。共同装備を少し分配し再出発する。

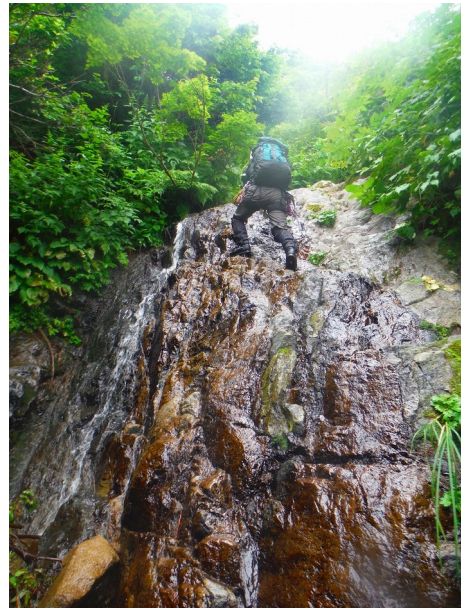
小滝の先の10m滝は直登は厳しそうなので右側より灌木を掴んで登り、落口に向かってトラバース。栗原さんのルーファイが冴え、小さく巻けた。5m滝は左壁登ると小滝が続く。ゴルジュ内の滝を越えると遠目には「く」の字滝に見えた2段7m滝を登るとその先はナメ滝となっている。何れも滑りそうで気が抜けない。階段状に見える15m滝は途中が嫌らしそうなので栗原さんがロープを出し、ハーケンを1本打って登りきる。6m滝は右から巻き、CS4m滝を越えると正面に4段15m滝が見える。水量は左の側壁のような6m滝が多いが、まずは方向が正しいと思われた15m滝を登ってから再確認することにする。この滝も途中の一步が嫌らしく、栗原さんが慎重に登ってスリングを垂らしてくれた。登ってみると側壁の滝の方が谷も深く、方向も正しそうなのでトラバースしてそちらに復帰した。



15m 滝はロープを使用

更に高度を上げ、適当な所で水を汲むと間もなく沢は涸れてしまう。それでも沢型は顕著なのでしばらく進むも、だんだん藪っぽくなってきた。つるも出てきて通過が大変な箇所もあったが、そこを過ぎると大分歩き易くなり、そこから一漕ぎで稜線へと着く。ここで無線交信を試みると銀山平の佐貫とつながり下降後の足も確保できたので、予定通り二俣ノ沢を下降することを再確認した。

間違えないように方向を見定めて藪の斜面を降りていくと、しばらくして樋状のルンゼに出る。このルンゼ、腰位の深さがあり、やや急であっても両手で突っ張って下りていける。5m滝は左から灌木を掴んで巻き、12m滝は懸垂下降する。雨がポツポツしてきたので、ロープを出した時に雨具を着る。この滝は仕入沢遡行の際も下降時に、やはり懸垂下降した。しばらく穏やかに下降した後に現れた滝場は左から巻き降りた。



上流部のナメ滝

方向が変わった後は、林道はまだかなと思いつつ進む。林道終点にある不思議な建物が見えなかったが、佐貫が沢から目立つ所に駐車して待っていてくれたので、すぐに林道が見つけられた。また、ここまで車で迎えに来てくれていたのは本当に助かった。それから車で銀山平方向にトンネル内を進んだが、ここを徒歩で車を回収に向かうのはかなり怖いなど改めて思った。そして温泉、じねんと定番のコースで、少し渋滞した関越道を走って帰京した。

毎週、天候不順のため転進に次ぐ転進でなかなか思った所に行けないが、そんな中で日向倉沢は期待を上回る沢だった。ただ少しヌメルので快適とは言い難い。二俣ノ沢を下降すると概ね周遊できるのは嬉しいが、車の回収にやや難点がある。かといって同沢下降や稜線の藪漕ぎもできれば避けたいし…。この辺りがあまり遡行されていない理由かも知れない。

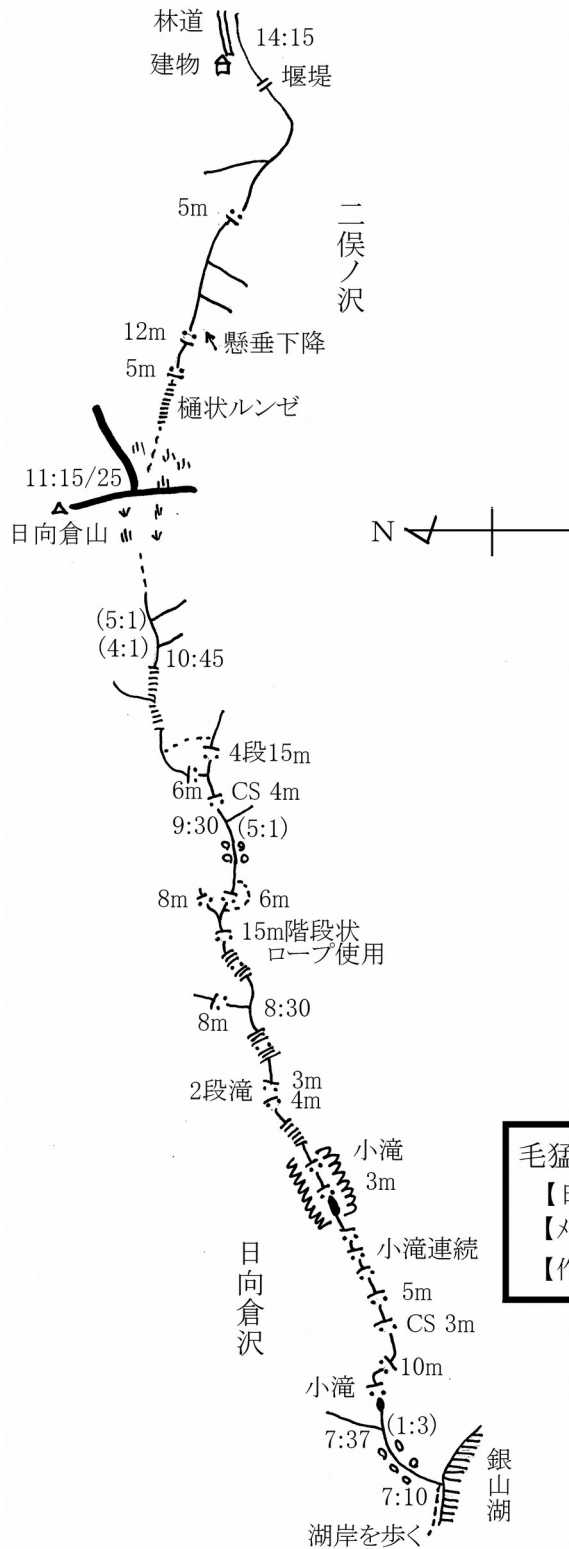
なお入渓も時期や状況によっては、対岸の船着場から渡渉する方法も考えられる。

【グレード】2級上

【行程】

8/24 銀山平(6:45)～日向倉沢出合(7:10)～稜線(11:15/25)～二俣ノ沢林道終点(14:15)

【地図】奥只見湖



毛猛／只見川日向倉沢～二俣ノ沢下降
 【日時】 2014年8月24日(日)
 【メンバー】 棚橋(L)、栗原
 【作図】 棚橋